

2010年4月

赤岳 東稜

2010年4月17日～18日

メンバー：西村(L)、後藤(記)

西村さんが一度登ってみようと思っていた赤岳東稜に行くこととなった。金曜まで天候は悪かったが、土日は回復との予報だったので一安心。4月中旬にもかかわらず降雪量が覆いと予想されたのでワカン、ビーコンを装備に加え出発した。

金曜夜 清里の道の駅に向かう中央高速からみぞれ混じりの雨となり、道の駅に着く23時頃には本格的な雪となった。心配しつつ軒先を借りテントを張って仮眠。

4月17日(土) 小雪後快晴

起きて見るとまだ雪は降っており前夜からの雪で7、8Cmの新雪。道の駅を後に、登り口の大泉スキー場に向かう道路では次第に積雪が多くなり2台のブルドーザーが早朝の除雪作業をしていた。1300m付近のスキー場のゲート辺りでは15Cmほど積もっており、天気予報に反しまだ雪は止んでいなかった。



■ 新雪の大泉スキー場駐車場

身支度を整え出発。歩き始めて30分ほど経つと雪は止み、次第に雲が切れ始め明るくなってきた。堰堤が次々と現れ、地形図

では10ヶ所の堰堤の記載があるが実際はもっと多くあったように思えた。県界尾根の分岐を過ぎる頃から予報通り快晴となってきた。途中ワカンを着けたが、ふわふわの雪でそれほど潜らず、反って歩き難い。ワカンは必要ないだろうと云うことで、外し林道沿いの木に引っ掛けてデポすることにした。

1時間ほど進むと、大門川の川原は次第に狭まり沢の様相を呈してきた。記録にあるニセ二俣付近は、木立に覆われは地形が見通せず確かにわかり難い。地形図で確認すると、右側の沢のほうが広く大きい左側の沢が本来のルートだろうと判断し少し登ってみると2、3ヶ所に赤テープや赤布の目印があった。7、800m進み12時前に東稜の取り付きの二俣に到着。

二俣から東稜へは、右側の雪の詰まった沢を2、30分登り、そこから比較的傾斜の緩い斜面から取り付いた。1時間ほどで尾根に出ると勾配が緩くなり、大きな木々がまばらに生え広々とした斜面が広がっていた。この斜面を登るにつれ斜面は次第に狭まり尾根らしくなってきた。

ようやく14時前、第一岩峰基部に着く。時間も早く、第一岩峰の上にテントが張れる場所があるとの記録があったので先に進むことにした。西村さんトップで20m程のほぼ垂直な岩と草付きの交じり合った雪壁に取り付く。岩峰基部を左側に沿って5、6m登り右側の凹部に廻りこんで姿が見えなくなった。ロープを出していなかったので難儀している、少々待って登り始めた。凹部はハイ松を掴んだり、草付きにピックを叩き込んだり、ツアッケを蹴込んだり難儀していると、登り終えた西村さんが上からロープを投げ落としてくれ一安心。

岩峰上部は50mほどの小さなナイフリッジが続いており、その先はテン場となるような平坦な場所は見当たらなかった。ナイフリッジが終わった辺りに整地すれば何とかテントが張れそうな場所があったのでここをテン場とすることになり、整地に取り掛かった。雪庇を切り崩し広くしたり、両側には滑落防止の壁を作るなど、土木作業に1時間以上もかけ、ようやくテントを張り終えた。

このテン場からは、赤岳の山頂から垂直に切れ落ちた雄大な岩場(バットレス?)、夜には清里の町明かり、その奥には甲府の夜景が望まれ絶好のテン場だった。

4月18日(日) 快晴

6時40分出発。赤岳南峰の往復なので荷が軽い。今日はロープを出し交代でトップに立つ。

金曜夜の新雪は2、30Cm あり、その下は所々クラスとしているがそれほど歩き難くはなかった。ナイフリッジや雪壁を通過し8時前に小ぶりの岩峰(第2岩峰か?)に到着。



■ 晴天の雪稜を歩く(正面第二岩峰か?)

この岩峰は直登できそうもなかったのもので、右側の斜面をトラバースし隣の枝尾根に移るルートを取った。このトラバースは45mロープ目いっぱい、斜面もきつく数ヶ所かの支点を取るなどしたので結構時間がかかった。

この後は灌木が所々生えた斜面を登り10時前に南峰に達した



■ 第二岩峰? トラバース

赤岳南峰 無風快晴のなか、近くには列を成し登り降りする登山者の赤岳、眼下に阿弥陀、権現、編笠の山々、そして遠くには紺碧の空に映える白く雪を被った南アルプス、中央アルプス、さらに富士山、遙か遠くに北アルプス連山などなど360°の大パノラマを楽しむことができた。また今登ってきたばかりの東稜、林道から赤岳を見上げた時には真正面に位置しているせいかそのルートはハッキリせず判り難かった。南峰眼下には、我々トレース跡が残ったナイフリッジや岩峰など、高低差のある東稜尾根筋がはっきりと開けていた。



■南峰 360° のパノラマ



■ 南峰からの東稜



■降りから見たテン場

本峰往復の予定であったが、南峰まで7ピッチ3時間近く要し、降りにも時間がかかりそうなので本峰往復は省略し降ることにした。

降りは懸垂3回を除き、登ったルートを辿り2時間半ほどでテン場に戻った。テントを撤収し15時に帰路に付いた。第一岩峰は難なく懸垂で降りることができ、登攀具を外した。林道に降り積もっていた雪はほとんど消え、17時半着いたゲート駐車場の15Cmほどの雪はすべて消えていた。

駐車場では、東稜を単独日帰り予定の70代男性と会い話をした。彼の話では、翌日真教寺尾根からトラバースで東稜に取り付き、真教寺尾根を降るとのこと。姿勢も良く、はっきりとした口調でとても70代とは思えず、世の中には驚くような人がいるものと感心した。5年後の自分はどうなる事やら

同ルートの雪稜 登攀／下降、天候にも恵まれよい経験をする事ができた。

コースタイム

4月17日

ゲート駐車場(6:15)ーニセ二俣(10:40)ー二俣(11:40)ー第一岩峰(14:00)ーテン場(15:10)

4月18日

テン場(6:40)ー第二岩峰(8:00)ー南峰(10:10/11:00)ーテン場(13:20/14:20)ー二俣(15:50)ー駐車場(17:40)

地形図(1/25000)

八ヶ岳東部、西部